

【網引学区】学校再編に係る地域説明会 概要

*分かりやすくするため、一部補足を加えています。

【日時】 2019年（令和元年）8月6日（火） 19:40～21:10

【場所】 網引小学校 図書室

【出席】 参加者 46人（地域、保護者 他）

行政 10人（教育次長、管理部長、学校教育部長 他）

【内容】

- 1 開会
- 2 あいさつ（教育次長）
- 3 説明
 - ・新市中央中学校と常金中学校の再編について
 - ・開校準備委員会について
- 4 意見交換
- 5 閉会

お詫び

教育次長ほか職員が、地域説明会の当日、開始時刻に遅れて到着し、来てくださっていた皆様をお待たせし、貴重な時間を無駄にしまいました。心からお詫び申し上げます。

今後、このようなことがないようにいたします。誠に申し訳ありませんでした。

あいさつ

（教育次長）

- ・本市では、2015年6月に「小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針」を策定し、主体的・対話的で深い学びを進めていくためには、一定の集団規模が必要という考えで、学校規模を整え、市全体の学校配置を見直すため、取組を始めました。
- ・子どもの数は、ピークだった1980年代と比べると、現在約6割にまで減少しています。一方、学校の数も、当時からほとんど変わっておらず、各学校に通う子どもの数がだんだん減ってきています。
- ・新市地域においても、常金中学校の生徒数が減ってきていて、現在1学年20人未満となっており、今後も減少する見込みです。また、新市中央中学校の生徒数も減ってきています。子どもたちのこれからの教育を考える中で、一定の集団規模を維持するため、新市中央中学校と常金中学校の学校再編の方針を出しました。再編後の新たな学校は、2022年4月の開校を目標としています。
- ・これからの先行き不透明な時代を生きていく子どもたちに必要な力を付けていくための教育を、しっかりやっていきたい、新市地域の教育環境を整えていきたいという思いでいます。

意見交換（出席者から出された意見等）

■学校再編に関すること

- 学校再編をして、一定の集団規模にすることにより、良い教育ができると言いながら、その一方で常金中学校や新市中央中学校のそれぞれ良いところがあると言われていたが、なぜその良いところを伸ばさないのか。一緒にしなくても、良いところを伸ばせると思う。
- なぜ人数の基準にこだわるのか。人数が少ない学校も、人数が多い学校もあっていいと思う。

→ (回答)

子どもたちが、これからの人口減少社会やA I (人工知能) 時代を生きていくためには、自分の意思を持ち、色々な考えをもった人と話し、自分たちで問題を見つけ、すぐに答えが出ないことにも他者と協力して解決策を見つけていく必要があります。そのため、子どもたちには、課題発見・解決力、創造力、粘り強さ、コミュニケーション能力などがより一層必要になります。

こうした力を付けるためには、より多くの友だちと切磋琢磨し、時にはつまずいたり、対立したりすることがあっても、話し合いながら一緒に色々なことを解決していく経験が必要です。学校再編は、一定の集団規模を維持し、力を付けていくための教育環境を作っていくものです。

- 適正な人数というのは何人なのか。常金中学校と新市中央中学校が一緒になれば、ちょうど良い適正な人数になるのか。
- 人数の基準により再編されようとしているが、適正規模の根拠は何で、どのような効果が子どもたちのためにあるのか、はっきりと示してほしい。

→ (回答)

これからの子どもたちに求められる力を付けるための望ましい教育環境について、教育委員会の諮問機関として設置した学校教育環境検討委員会において、2014年1月から10月の10か月間をかけて検討いただきました。委員は、大学教授など学識経験者や、自治会、PTA、経済団体などの代表者、学校長等をお願いしました。委員会では、現職の教員の意見を聞くため、全校の教員を対象にアンケートを実施し、その結果も参考に、委員それぞれの意見をもとに、答申にまとめられました。その内容をふまえて策定した「小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針」において、学校の適正規模の基準を定めました。

小学校は、クラス替えが可能な各学年2～3学級、1学級あたりの人数は16人以上としました。また、中学校は、心身の発達が顕著な時期であり、自己効力感や自己肯定感は、より多くの友だちとの関わりの中で養われていく、また、全教科に正規の教員を配置できることから、各学年3～4学級、1学級あたり20人以上を基準としました。

学校教育環境検討委員会において考え方が示されたように、学校には、一定規模の集団が必要と考えます。教育効果は、学力調査だけで測ることはできません。これからの子どもが付けていくべき力は、点数だけで表せるものではないからです。適正規模の根拠を明確な数値で示すことは難しいですが、主体的・対話的で深い学びを進め、学力に加え、豊かな人間性や社会性などを育むためには、多様な意見を交わすことができ、多様な人々と協働できる一定の集団が必要です。

- 地域を含んだ教育が本当の教育だと思う。検討委員会を組織して検討したと言われているが、当事者としてはとんでもないことを言っていると感じる。計画を再考してほしい。

→ (回答)

子どもたちが学ぶ場である学校、教育環境はどうあるべきかについて、検討して出された答申をふまえ、基本方針を定めました。その考え方をもとに、新市町の子どもたちをどのような環境の中で学ばせ、育てていくかについて、保護者や地域の皆さんと話し合いたいと思います。

新市学区の説明会では、新市町全体で子どもたちの将来を考え、一緒に考えていこうという意見もいただきました。

○ 常金丸学区から白紙撤回の要望書が出されたとのことだが、その内容を教えてほしい。

→ (回答)

要望書は、再編計画が、3年後の開校を旨としており、突然で受け入れられないというものでした。また、常金中学校区は1小学校1中学校で、地域の学校教育活動への関わりや、地域と学校とのつながりが強く、充実した小中一貫教育をしているので、このまま学校を残してほしいという思いで、出されています。

○ 学校の統廃合は全国的な傾向で、少子高齢化や過疎化も同様である。この傾向に従って統廃合することは、より過疎化を早めてしまうことではないかと思う。人数が少なくなっても、そこに子どもがいるのであれば、そこで学び、常金中学校と新市中央中学校であれば、お互いに交流等もしながら、両校ともそれぞれ伸びていく方法を考えてもらいたい。

○ 通学距離が長くなれば、部活動後に帰宅する時間も遅くなる。身近な場所に学校があるということは、家族や本人も良いと思う。

→ (回答)

子どもたちが必要な力をつけ、身に付けた力を伸ばしていくためには、日々の学校生活の中で、子ども同士が直接関わり合い、学び合うことが大切です。主体的・対話的で深い学びができるよう、一定の集団規模を整えていくように考えています。

全国で学校の統廃合が進んでいます。再編により学校が遠くなった地域では、子どもたちの安全を確保するために、スクールバスを運行しています。徒歩で通えることが望ましいと思いますが、子どもの数が少なくなっている中、教育効果などから、それがあたりまえではなくなっています。常金丸学区に住みながら、中学校からは、より多くの友だちと一緒に学ぶことができるよう、責任をもって通学支援を行います。

○ 行政や教育委員会のために学校があるのではなく、地域の子どものためにある。学校再編の目的や必要性等が資料に色々書かれているが、経費削減が本当の目的ではないのか。

→ (回答)

全国の多くの自治体が直面しているように、福山市も、人口が減少する中、学校や公民館などの公共施設や、道路、上下水道などインフラ施設の老朽化による更新費用など、財政面の問題がない訳ではありません。

しかし、教育委員会は、子どもたちの教育環境を整えていくことを再優先しています。授業はもちろん、部活動や学校行事も一定規模の人数がいる方が、子どもたちは多様な経験ができ、様々な学びができます。学校現場にいと、実感としてそのように思います。

今後もっと子どもの数が少なくなってから考えるのではなく、できるだけ早く望ましい教育環境を作り、子どもたちを育てていくことが必要だと考えます。

○ 福山市の大規模の学校から、子どもたちをスクールバスで小規模の学校に運べば、学校再編をする必要はないのではないのか。そのような考え方はないのか。

→ (回答)

過去、学校を分離新設した時代は、学区の中にもう一つ学校を作っていましたが、学校を増やすことにより、地域のつながりを分断するという現象が起きました。地域とのつながりを大切にするため、一つの地域の子どもは、別々の学校ではなく、同じ学校に通うようにしたいと考えます。

福山市全体の子どもの数が減ってきており、今後25年間で約3分の1が減る見込みです。そうした状況を見据え、適正規模の基準を設け、全市的に学校配置を見直していくこととしました。

○ 多様な意見があるので、この問題をまとめ、一つの方向に向かうのは非常に難しいと思う。意見がまとまらなくても、スケジュールありきで再編に向けて取組を進めるのか。意見がまとまらない場合は、再編時期を柔軟に考えるということはあるのか。

→ (回答)

計画では、2022年4月の開校を目標としています。開校準備委員会において、新しい学校について協議をする期間が2年間は必要であることから、最短で2022年4月を再編時期と考えました。保護者や地域の方々の理解がいただけるように、しっかりと皆さんと話し合いをさせていただきます。

○ 少子化ということは前々から分かっているし、今後綱引小学校や新市小学校を含め、多くの学校の子どもの数がどんどん少なくなってくる。各学校に教員を配置する必要があるため、財政面の問題が出てくるのは分かる。コスト削減を他方で図りながら、例えば10年後に再編というように、長期にわたっての計画を立てないと、なかなか地域の人も納得しないと思う。

→ (回答)

現在、教員不足が深刻な状況となっています。福山市でも、定年退職した先生に非常勤で来てもらったり、臨時で勤めてもらったりして、教員を配置しています。教員は、県の教育委員会が配置しますが、人材探しは市が行います。人材の確保がだんだん難しい状況になっており、今後は人口減少により教員のなり手も減少するため、ますます厳しい状況になると予測されます。

中学校では、適正規模の学校であれば、各教科に正規の教員を配置することができます。教育の質の維持・向上を図る面からも、学校再編は必要です。

○ 2022年の開校時期をもう少し延ばすことを希望する。制服の問題もあるし、1年生から新たに入学するのと、途中から入学するのとでは全然違う。

→ (回答)

再編時期も含め、保護者や地域の皆さんと今後も話し合いをさせていただきます。

■教育に関すること

○ 学力調査の結果を見ると、少人数の学校の方が良い場合が多いのではないかと。

→ (回答)

全国学力学習状況調査は、その年度の小学校6年生と中学校3年生を対象に行います。同じ学校でも、年度により変動があり、小規模だから良いということはなく、良い年もあれば悪い年もあります。小規模校の方が教員の指導が行き届くという考えもありますが、今、教員が一方的に教えるといった授業を変えていっており、子どもたちが自分で気づき、自分で自発的に学習していけるような授業展開を図っています。子どもたちが色々な気づきの中から、どうしていけばいいかを考え、友だちの意見も聞き、一緒になって考えるといった学びづくりをしています。

そういう授業を通して力を付けていこうとしており、学ぶ過程をしっかりとみる授業や、学ぶ過程を大事にした評価を行っています。

○ 再編にあたっては、各学校の歴史と教育活動を引き継ぐと言われていたが、そのようなことが可能なのか。歴史や教育活動を引き継ぐこと自体はいいが、両校の良いところを取って、合わせて立派なものができるのかという疑問がある。

→ (回答)

両校の全ての取組を一緒にすることは難しいと思いますが、今の学校の良いものや新しい学校に引き継いでいくものを、学校や地域の方と話をしながら、教育課程を作っていきます。

常金中学校では、菊の栽培等、地域の方々の支援をいただき教育活動を実施しています。再編後の学校でも、常金中学校で行っていたことを引き継いで行おうとすると、引き続き地域の方々に協力いただかなくてはなりません。新しい学校を作り、子どもたちと一緒に育てることについては、両地域の方々の力が不可欠です。

また、常金中学校では、総合的な学習の時間の授業で、地元のデニム産業について学んでいます。新しい学校では、今度はどのような学習ができるのか、両校の先生や両地域の方々と考えながらやっていきます。ご協力をお願いします。

■地域に関すること

○ 新市中央中学校は昨年70周年を迎え、これから100周年に向けて頑張ろうと地元が燃えている。それが再編によりリセットされゼロからとなるのは、いかがなものか。

→ (回答)

子どもたちに、新しい学校で学びを広げ、新たな気持ちでスタートしてもらいたいという思いがあり、統廃合ではなく再編という考え方で進めています。どの学校にも歴史があり、皆さんが新市中央中学校に対する深い思いを持たれていることは、我々もよく分かっています。再編の考えについて、ご理解いただきますよう、お願いします。

○ これまで人数が減らないような努力を教育委員会や市全体でどれほど行ったのか。再編後、また何年か後に再編ということにならないような行政努力をしてほしい。なぜ少子高齢化となっているのか、教育委員会だけでなく市全体で検討し、努力をしてほしい。

→ (回答)

学校は、児童生徒数が減ってきていても、子どもたちに力を付けるため、工夫して教育活動を行っています。人口減少に歯止めがかからないのは日本全体の問題です。

福山市は、人口減少対策を行ってきており、近年では、子どもの医療費助成を中学校卒業まで拡大しました。子育て支援として、妊娠・出産から子育て期までワンストップで支援が行えるよう、福山ネウボラの取組も行っていきます。市の人口を増やしていくことはなかなか難しいですが、減っていくことを出来るだけ少なくするという努力を行っていきます。

○ 地域に学校がなければ、若い世代もその地域に帰ってこない。病院やスーパー等、生活していくうえである程度の便利さがないと、過疎化対策をしてもなかなか帰ってこない。特に学校は、子育てには大事なものなので、過疎化の歯止めをかけるためにも、小さな学校も何とか残していく方法を考えてもらいたい。地方の活性化対策の一つになるのではないかと思います。

→ (回答)

学校が身近な場所からなくなると、地域としてはさびしいし、過疎化が進行していくのではないかと心配があるのは当然だと思います。地域活性化やまちづくりについては、関係部署と連携し、地域の皆さんと一緒に取組んでいきます。

■その他

- 福山市内の中学校であれば、基本的にどこに行ってもいいのか。新市地域の小学校から芦田中学校へ進学している子どももいるので、その制限をした後、子どもの数の増減を考えるべきだ。
- 新市町から芦田中学校へ進学している子どもがいることについて、教育委員会は、どんどん進学してもいいと勧めているのか。

→（回答）

本市では、通学区域を定め、住所地による指定学校に進学することを原則としています。

新市中央中学校区においては、3小学校と中学校が緊密に連携し、9年間の学びを一体的に捉えた小中一貫教育を実施しています。この小中一貫教育の取組が、中学校進学によってさらに生かされることが教育の充実につながるものと考えています。

学校選択制度は、保護者や生徒の多様なニーズに応えるため、中学校では教育内容や部活動等を理由に学校を選択することができるものですが、指定学校を原則とする趣旨を、保護者、児童に周知していく考えです。